

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672700137
法人名	医療法人 椎原会
事業所名	高齢者グループホーム 椎原館
訪問調査日	平成 20年 7月 8日
評価確定日	平成 20年 8月 8日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4672700137
法人名	医療法人 椎原会
事業所名	高齢者グループホーム 椎原館
所在地	南九州市川辺町中山田1888番地 (電話) 0993-58-9391
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年 7月 8日

## 【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 125,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 91 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)椎原会 有馬病院 (医)蒼風会 児玉病院 深町歯科医院 米沢内科CL
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの診療所の一部を改修してホームが造られている。現在でも週一回、地域の方々が診察に来られ、待合室は入居者との楽しい団欒の場として利用されている。夏祭りの開催やゲートボール大会の主催など、地域との交流も盛んに行っており、まさに地域に密着したホームである。看護師資格を有する管理者を中心に、母体病院の支援を得ながら、高齢化する入居者が安心して暮らし続けることができるように、日々熱心に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題であった災害対策について、ホームで火災が発生した場合には、特別に防災無線で「椎原館」の名前を出してもらい、地域の人々の協力が得られるように依頼している。しかし、近隣は高齢者が多く、協力できる方が少ないため、引き続き運営推進会議等で話し合いを行っている。地域の自主防災組織との連携を模索中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、朝のミーティング等を利用して項目毎に職員全員で検討している。日常の仕事のあり方について気付き考え直す機会となり、意義あるものとして理解している。外部評価についても職員で改善策等を話し合い、運営推進会議でも報告している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回は必ずしも開催できていないが、災害対策等、地域の協力のあり方や方向性について話し合うなど、会議は有効に機能している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者個人々人を大切にケアに日々努めており、苦情等が寄せられることは無いが、以前ご家族から「職員の名前がよくわからない」とのご意見を受け、「名札」をつけるよう対応するなど運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会(小組合)に加入しており、地元の諸行事(夏祭り、敬老会、運動会など)に参加している。また、毎週水曜日には隣接する診療所で診察が行われ、待合室は入居者と地域の方々との交流の場となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域のお茶の間を目指します」という、地域密着型サービスの役割を意識した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に理念を伝えるとともに、職員は毎日読み返して日々のケアに活かすよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会(小組合)に加入しており、地元の諸行事(夏祭り、敬老会、運動会など)に参加している。また、毎週水曜日には隣接する診療所で診察が行われ、待合室は入居者と地域の方々との交流の場となっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、朝のミーティング等を利用して項目毎に職員全員で検討している。日常の仕事のあり方について気付き考え直す機会となり、意義あるものとして理解している。外部評価についても職員で改善策等を話し合い、運営推進会議でも報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は必ずしも開催できていないが、災害対策等、地域の協力のあり方や方向性について話し合うなど、会議は有効に機能している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2～3ヶ月毎に、地区内の6グループホームにより学習交流会を開いており、市の担当者も出席してお互いに情報交換や相談を行っているが、運営推進会議以外に市の担当者がホームを訪れることはほとんどない。		市担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「しいはら通信」を2～3ヶ月に1回発行している。面会時にはご家族に日頃の暮らしぶりや健康状態を直接伝え、遠方の方へは「手紙」や電話により報告している。金銭管理の状況については、出納帳の写しを定期的に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者個人々々を大切にケアに日々努めており、苦情等が寄せられることは無いが、以前ご家族から「職員の名前がよくわからない」とのご意見を受け、「名札」をつけるよう対応するなど運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や離職はほとんど無く、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けている。やむを得ず職員が交代する場合も入居者にきちんと紹介し、良好な関係が築けるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングや毎月のカンファレンスの際、事例を通じた学びや気付きを話し合うなど、働きながらトレーニングしている。また、管理者は職員の経験や知識に応じて、外部研修を受講させている。今年度も2名の職員が介護福祉士の資格を取得するなど、職員の段階に応じた育成にも配慮している。	○	管理者の裁量のもとで職員を育てる取り組みは行われているが、さらなる質の向上のために、年間研修計画や個々の育成プログラムに基づいた人材育成を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県および地域グループホーム連絡協議会や、地区内の6グループホームで組織する「学習交流会」を通じて、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあると、ホームを訪ねて、お茶を飲みながら入居者や職員と触れ合うことでスムーズな入居につながることを伝えている。可能な限り、入居前に来訪していただき、安心してサービスが利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として、日々の生活の場面で色々と教えていただくことが多い。しかし、入居者の高齢化に伴い、「できない人」と思い込み、過度な支援を行っているのではないかという懸念がある。	○	入居者の「できること」と「できないこと」を的確に判断し、個々に応じた支援を行いながら、ともに過ごしあう関係を築いていただきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人との会話や動作、ご家族からの聞き取りにより、それぞれの希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居後に初期計画を作り、2週間程度徹底して入居者の情報収集に努めている。その後、職員とともにカンファレンスを行い、本人及びご家族の希望を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、定期的に計画の評価及び必要に応じて随時、サービス内容の見直しを行っているが、介護計画の変更まで実施していないケースもある。		定期的及び随時の見直しによりサービス内容の変更が必要となった場合、介護計画の変更まで確実に実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外来受診の支援、入院した際の早期退院の支援、医療処置を受けながらのホームでの生活継続など、看護職員を中心に協力医療機関と連携しながら様々な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、大半が同一法人の医療機関であるが、入居者の個別事情や希望によっては他のケースもある。その場合、受診経過については医療機関と情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際および重度化した場合に、ご家族、医師、看護師を交えて対応を話し合い、その方針を職員を含めた全員で共有している。また、入居者の状態に変化が見られる都度、ご家族に説明して意思の確認を行い、適切な支援に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の会話やケアの場面(入浴や排泄の介助)において、入居者の尊厳やプライバシーに配慮しながらも親しみやすい言葉で声かけを行うよう、日頃から確認しあっている。記録等の個人情報については、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など、入居者のペースや希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人の嗜好を把握して献立を考えながら、入居者と一緒に調理や盛り付け、配膳などを行っている。また、必要な方にはごく自然な形で食事介助をしながら、職員も一緒に食事を楽しんでおり、食後には歌が出ることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は基本的に1日おき、夏場は毎日入浴ができる。ただし、希望があればいつでも入っていただいている。また、入浴を拒まれる場合も、工夫しながら支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターで野菜を育てたり、洗濯物たたみやチリ紙折り、食事の支度など、入居者それぞれに得意なことが行えるように支援している。また、ホームで飼っている猫の世話を通し、それが心の支えとなっている入居者もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩やゴミ出し、屋外での野菜の収穫など、ホームの中だけで過ごすことなく、戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠しておらず、職員は鍵をかけることの弊害をよく理解している。入居者に外出したい素振りが見られる時は、さりげなく声をかけて一緒に外出するなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、入居者と職員と一緒に避難訓練を実施している。台風や水害に備えて飲料水や非常食の準備を行ったり、職員のシフトを強化するなど工夫している。地域との協力体制については、現在取り組み中である。		地区の防災組織との協力などを含め、災害時における地域との連携の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回記録されている。職員に栄養士がおり、栄養バランスに配慮した献立が作成されている。		水分の摂取量について記録表を利用するなど、職員間での情報共有により水分確保を支援する仕組みを検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	由緒ある木造の診療所を改装した建物で、あたたかい雰囲気につつまれたホームである。カレンダーや野菜のレプリカにより、生活感や季節感を感じることができるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の大半を食堂・居間で過ごすことが多く、それぞれの居室は寝るだけという入居者も多い。自宅で使用していた家具等の持ち込みは少ないが、小物やご家族の写真、位牌などを持ち込むことで居心地よく過ごしている。		